




論文審査及び最終試験又は学力の確認の結果の要旨

①・乙	氏名	安部 孝文	
学位論文名	Is Being a Regular Players with Fewer Teammates Associated with Musculoskeletal Pain in Youth Team Sports? A Cross-Sectional Study		
学位論文審査委員	主査	渡部 広明	 印  印  印
	副査	竹下 治男	
	副査	佐倉 伸一	

論文審査の結果の要旨

青少年のスポーツ傷害に伴う運動器疼痛はスポーツのパフォーマンスを低下させるだけでなく、日常生活動作QOLの低下や心理的影響を与えることが報告されている。従来、この運動器疼痛の外的なリスク因子について、メンバーの管理状況（レギュラー選手かどうか、チームメイトの人数）には着目されていなかった。本研究の目的は、チームスポーツにおけるチームメイト数が少なくかつレギュラー選手であることが、運動器疼痛のリスク因子であるか否かを明らかにすることである。島根県雲南市の全中学・高等学校のチームスポーツに所属する632名を対象に自記式質問票により評価した。チームメイト数の多寡は、Teammate Quantity Index (TQI) = [学年内チームメイトの人数] / [スポーツに必要なプレーヤー数]として計算した。運動器疼痛（全般、上肢、下肢、下脚）を従属変数、TQIの2群（高TQIまたは低TQI）とレギュラーかどうかの2群（レギュラーまたは非レギュラー）の組み合わせ（4群）を説明変数とするポアソン回帰分析を行った。結果は、44.3%が少なくとも週に1回以上の運動器疼痛を身体のいずれかの部位に有していた。多変量解析の結果、高TQIかつ非レギュラー選手と比較して、低TQIかつレギュラー選手は、腰痛の有病率が有意に高かった。（8.3% vs 21.3%, PR= 2.08 [95%CI1.07-4.02]）。その他の運動器疼痛（全般、腰、下脚）の有病率は、低TQIかつレギュラー選手が最も高かったが、有意な関連はなかった。チームメイトが少なくかつレギュラー選手は、腰痛を有する危険性が高いことが示唆された。本研究はスポーツに関連した運動器疼痛の発生がメンバーの管理状況に影響されることを明らかにし、予防対策への一つの根拠を示すものといえ、学位に値する。

最終試験又は学力の確認の結果の要旨

申請者は中学・高等学校の生徒におけるチームスポーツの運動器疼痛の危険性に関して検討し、選手数の少ないチームのレギュラー選手は腰痛発症のリスクが高いことを明らかにした。この事実は生徒を指導する立場にあるものが指導上認知すべき新たな知見であり、小児運動器疼痛の防止に貢献できる研究である。審査における質疑応答は的確であり関連する知識も豊富であることから学位授与に値すると判断した。（主査 渡部広明）

申請者は、雲南市における中学生高校生を対象に、Teammate Quantity Index (TQI)を指標として、レギュラー選手と非レギュラー選手の別を含めた運動器疼痛の新たなスポーツ関連リスク因子を示唆し得た。申請者の関連知識も豊富であることから、学位授与に値すると判断した。（副査 竹下治男）

青少年期における運動器疼痛・外傷とスポーツの要因を調べた研究はこれまでもあったが、チームスポーツにおけるメンバー管理に焦点を当てたものはなかった。申請者は、雲南市の中高生に行った自記式質問の回答を集計し、独自のTeammate Quantity Index (TQI)という指標を用いた分析を行って、運動器疼痛の発生がチームのメンバー数やレギュラーであるか否かに関連しているという新しい知見を得た。申請者の関連知識も豊富であり、学位授与に値すると判断した。（副査 佐倉伸一）

（備考）要旨は、それぞれ400字程度とする。